

2016年4月実績概要（メモ）

（2016.5.27）

定期修理時期の合間から生産は前月を多くが上回るも、前年対比では過半がマイナス。

1. 生産動向

イ) エチレン 531,400トン

前月比 +0.9%（+ 4,800トン）

前年同月比 ▲7.3%（▲41,600トン）

生産増減に係る諸要因	<前月比>	<前年同月比>
日数増減	▲3.2%	-
定修要因等	+2.4%	+2.5%
能力増減	-	▲12.1%
稼働率変動	+1.7%	+2.3%
生産増減率	+0.9%	▲7.3%

稼働プラントの実質稼働率試算：前月95.2%→当月96.7% ←前年同月94.7%

定修プラント：前月1社1プラント→当月1社1プラント ←前年同月1社1プラント

ロ) 主な石油化学製品

前月比では、稼働日数が減少したが、定修規模差や稼働率要因からHD、PP、PS、SM、塩ビモノマー、AN、SBR、BRなどの13品目がプラス。ベンゼン、トルエン、キシレンなどの4品目は定修規模の増加もありマイナスとなった。

前年比では、定修規模差等からLD、HD、PS、SM、SBR、BRなどの10品目がマイナス。PP、塩ビモノマー、EO、EG、キシレンなどの7品目はプラスとなった。

2. 樹脂の生産・出荷状況（LD、HD、PP、PS）

イ) 生産

前月比では日数が減少したが、定修規模の縮小と稼働率要因からLD、HD、PP、PSの4樹脂揃ってプラスとなった。

前年比では、定修規模の増加等からHD、PSで二桁台のマイナスとなったのをはじめLDを含め3樹脂でマイナスとなった。PPは定修系列数が少なかったこともありプラスとなった。

ロ) 国内出荷

前月比では、連休入りに伴う営業日数の減少からLD、PPでマイナスとなった。PSは包装分野、雑貨・産業分野の出荷が当月に伸びたことからプラスとなった。

前年比では、LDは各出荷分野ともほぼ前年並みの出荷であった。HD、PPではフィルム分野の出荷が減少したが、これに代って射出成形分野等の出荷が増加しHDは微減、PPは前年並みとなった。

PSは前年の出荷が当年以上に伸長したことから比較上マイナスとなった。

ハ) 輸出

国内出荷との兼ねもあり、前月比ではHD、PSでプラスとなったが、LD、PPはマイナス。前年比ではLD、HD、PPで大幅なマイナスとなっている。

ニ) 在庫

在庫量は、LD、HD、PSは減少し、PPは増加した。在庫率(季節調整済)は前月に対してLDはやや上昇したが、HD、PP、PSは低下した。在庫水準としてはLD、HDはやや高め、PP、PSはほぼ適正水準となっている。

	前月対比増減量 (単位:トン)	季節調整済在庫率 (単位:ヶ月)	
		3月末	4月末
LD	▲ 5,200	2.9	3.0
HD	▲12,200	3.4	3.0
PP	+11,300	3.0	2.7
PS	▲11,400	1.8	1.3

以上